

3

システム機能の説明

本章では、システムの機能について説明しています。

- 1** 日本語入力システム MS-IME について 78
- 2** インジケータ領域について 80
- 3** ディスプレイ解像度の変更 81
- 4** ドライバのインストールについて 85

① 日本語入力システム MS-IME について

① MS-IME ツールバーの表示

本製品には Microsoft 社製の日本語入力システム MS-IME が標準装備されています。MS-IME のバージョンはお使いになるシステムによって異なります。

Windows 98 ご使用時	: MS-IME98
Windows NT ご使用時	: MS-IME97
Windows 2000 ご使用時	: MS-IME2000

1 タスクバーの日本語入力インジケータ  (MS-IME 日本語入力システムアイコン) をクリックする
メニューが表示されます。

2 [ツールバーを表示] をクリックする

MS-IME のツールバーが表示されます。

MS-IME2000 / MS-IME98 ツールバー



MS-IME97 ツールバー



なお、上記メニューの [ツールバーを表示] をもう1度クリックすると、MS-IME のツールバーは画面から消えます。

② 入力文字種を選択

入力する文字種を選択は、次のように行います。

まず、MS-IME のツールバーの左端のボタンをクリックすると文字の種類を選択するメニューが表示されます。ここでは、[ひらがな] または [全角ひらがな] をポイントしてクリックします。ツールバー左端のボタンは、[あ] に変わり、全角ひらがな入力が可能になります。

MS-IME2000 / MS-IME98 の場合



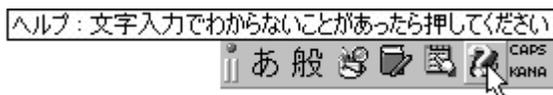
MS-IME97 の場合



3 MS-IME ツールバーの使用方法

MS-IME の詳しい使用方法是、次の MS-IME ツールバーのヘルプをクリックしてお読みください。

MS-IME2000 / MS-IME98



MS-IME97



MS-IME2000 / MS-IME98 の場合、ヘルプをクリックして表示されたメニューから [目次とキーワード] をクリックすると、ヘルプ画面が表示されます。MS-IME97 の場合、ヘルプをクリックすると、ヘルプ画面が表示されます。

知りたい項目をクリックしてお読みください。

画面は Windows 98 を例にしています。



② インジケータ領域について

ここでは、タスクバーインジケータ領域と日付と時刻の設定について簡単に説明します。

① 日本語入力インジケータ

日本語入力インジケータ  をクリックすると、MS-IME ツールバーの表示 / 非表示、日本語入力オン / オフの切り替えを行うことができます。

☞ 使用方法について ☞ 「本章 1 日本語入力システム MS-IME について」

② 音量インジケータ

音量インジケータ  をクリックすると、本装置に接続されたスピーカの音量を設定することができます。なお、ダブルクリックすると [ボリューム コントロール] の画面が表示されて、より詳細な設定ができます。

③ 日付と時刻の設定

タスクバー右端の時刻の部分ダブルクリックすると、日付と時刻の設定を行うことができます。

④ 画面インジケータ (Windows 98 モデル)

画面インジケータ  をクリックすると、ディスプレイの解像度を変更することができます。画面インジケータは、Windows 2000 / NTモデルでは、表示されません。なお、ダブルクリックすると「画面のプロパティ」の画面が表示されて、より詳細な設定を行うことができます。

☞ 「画面のプロパティ」でディスプレイ解像度を変更する

☞ 「本章 3 ディスプレイ解像度の変更」

③ ディスプレイ解像度の変更

ここでは、ディスプレイ解像度や表示できる色数を変更する方法を説明します。

● Windows 98 の場合

- 1 [スタート] ボタンをクリックして、[設定]-[コントロールパネル] をクリックする
[コントロールパネル] 画面が表示されます。
- 2 [画面] アイコンをダブルクリックする
画面のプロパティが表示されます。



メモ

・インジケータ領域の画面インジケータ  をダブルクリックしても、同様の画面が表示されます。



(注)画面は一例です。

- 3 [設定] タブをクリックする
[色]、[画面の領域] の設定を変更することで、ディスプレイの解像度、色数を変更できます。



(注)画面は一例です。

- 4 設定が終了したら、[OK] ボタンをクリックする
設定を保存して、[画面のプロパティ] 画面を閉じます。

Windows 2000 の場合

- 1 [スタート] ボタンをクリックして、[設定]-[コントロールパネル] をクリックする

[コントロールパネル] 画面が表示されます。

- 2 [画面] アイコンをダブルクリックする

画面のプロパティが表示されます。



(注)画面は一例です。

- 3 [設定] タブをクリックする

[画面の色] [画面の領域] の設定を変更することで、ディスプレイの解像度、色数を変更できます。



(注)画面は一例です。

- 4 設定が終了したら、[OK] ボタンをクリックする

設定を保存して、[画面のプロパティ] 画面を閉じます。

Windows NT の場合

- 1 [スタート] ボタンをクリックして、[設定]-[コントロールパネル] をクリックする
次のコントロールパネルの設定画面が表示されます。
- 2 [画面] アイコンをダブルクリックする
画面のプロパティが表示されます。



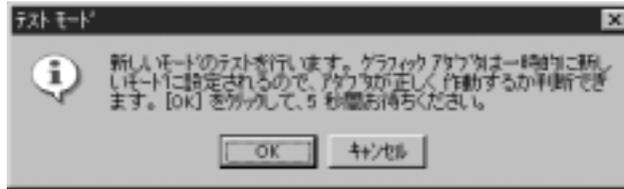
(注)画面は一例です。

- 3 [ディスプレイの設定] タブをクリックする
[カラーパレット] [デスクトップ領域] の設定を変更することで、ディスプレイの解像度、色数を変更できます。

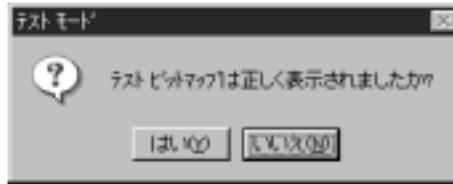


(注)画面は一例です。

- 4** 設定が終了したら、[テスト] ボタンをクリックする
次の画面が表示されます。



- 5** [OK] ボタンをクリックする
テスト画面が表示され、テスト後、次の画面が表示されます。



- 6** 正しく表示された場合は [はい] ボタンをクリックする
表示に問題があった場合は、[いいえ] ボタンをクリックし、正しく設定し直してください。
- 7** テストが正しく終了したら、[OK] ボタンをクリックする
設定を保存して、[画面のプロパティ] 画面を閉じます。



メモ

・ディスプレイの解像度、リフレッシュレートの変更の際は接続しているディスプレイに合った設定にしてください。

☞ 詳細について ☞ 『ディスプレイに付属の説明書』

4

ドライバのインストールについて

ドライバのインストールについては、各ドライバの説明書に従ってインストールしてください。

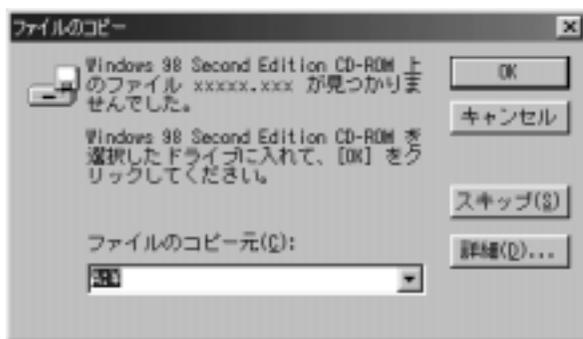
Windows 98 の場合

フロッピーディスクからドライバのインストールを行なっている場合に、[ディスクの挿入] 画面が表示される場合があります。



このような場合は、次の手順でインストールを継続してください。

- 1 [ディスクの挿入] 画面の [OK] ボタンをクリックする
[ファイルのコピー] 画面が表示されます。



- 2 ファイルのコピー元を入力する

[ファイルのコピー元(C):] に「C:¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS」と入力します。



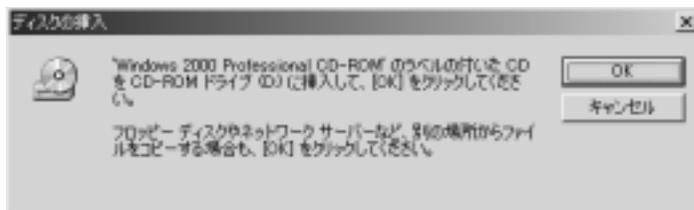
- 3 [OK] ボタンをクリックする

メッセージに従ってインストールを継続してください。

以上の操作を行なっても正しくインストールできない場合は、ドライバの提供元にお問い合わせください。

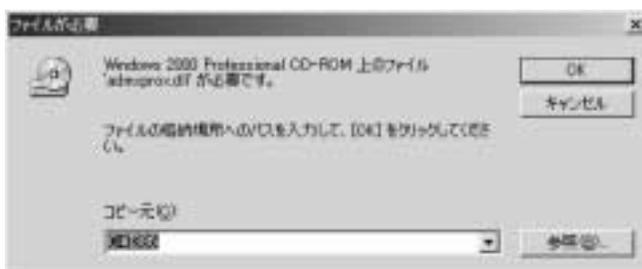
● Windows 2000 の場合

Windows コンポーネントの追加や、ドライバのインストールを行なっている場合、[ディスクの挿入] 画面が表示される場合があります。



このような場合は次の手順でインストールを継続してください。

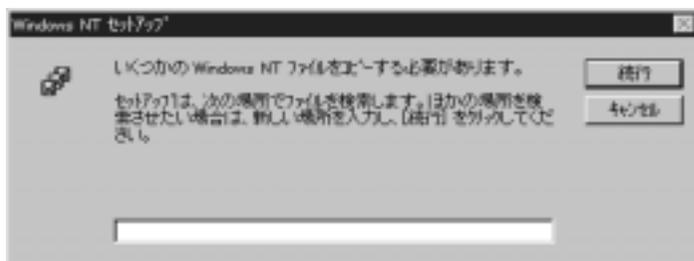
- 1 [ディスクの挿入] 画面の [OK] ボタンをクリックする
[ファイルが必要] 画面が表示されます。



- 2 コピー元を入力する
[コピー元 (C)] に、「C:¥i386」と入力します。
- 3 [OK] ボタンをクリックする
メッセージに従ってインストールを継続してください。

● Windows NT の場合

フロッピーディスクからドライバのインストールを行なっている場合、[Windows NT セットアップ] の画面が表示される場合があります。



このような場合は次の手順でインストールを継続してください。

- 1 ファイルを検索する場所を入力する
ファイルを検索する場所に、「C:¥i386」と入力します。
- 2 [続行] ボタンをクリックする
メッセージに従ってインストールを継続してください。

4

機器の拡張について

本章ではパソコン本体にオプションカードやディスク装置、メモリカードなどを取り付ける方法について説明します。
注意事項を守り、正しく取り扱ってください。

1	作業を始める前に	88
2	LAN の接続	90
3	プリンタの接続	98
4	マイク（別売り）の接続	102
5	スピーカ（別売り）の接続	103
6	本体カバーの取りはずし、取り付け	104
7	オプションカード	109
8	増設ハードディスク装置	113
9	増設 5 型装置	129
10	増設メモリカード	133
11	内蔵バッテリーの交換	137
12	内部ケーブルの接続	139

1 作業を始める前に



お願い

・システムの拡張についてはパソコンの内部について、ある程度の知識や経験のある方（以前にメモリ増設、オプションカードの取り付けなどを行われた方）を対象としております。システム拡張の経験のない方、難しいと思われる方はお買いあげの販売店、または同梱の『保守サービスのご案内』をご覧くださいのうえ、お近くのサービスステーションにご相談ください（作業をご依頼の場合は有償で行います）。

作業前の注意事項

湿気やホコリが少なく、直射日光の当たらない場所で作業を行なってください。温度範囲は 10 ~ 35 、湿度範囲は 20 ~ 80%Rh ですが、結露するような急激な温度変化を与えないでください。

必ず周辺機器に付属の説明書をお読みになったうえで、取り付けを行なってください。注意事項は周辺機器によって異なります。各項目をよく読んでから作業を行なってください。

各手順は、必ず正しい順序で行うようにしてください。

取り付け作業時にプリント基板の角などで指を傷つけないように、作業用手袋の使用をおすすめします。

静電気の発生しやすい環境（じゅうたんの上等）で作業しないでください。静電気を帯びることにより電子部品が故障することがあります。

必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから取り付け/取りはずし作業を行なってください。

作業上必要な場所以外には、手を触れないでください。

内部には高電圧部分が多くあり、万一触ると危険です。

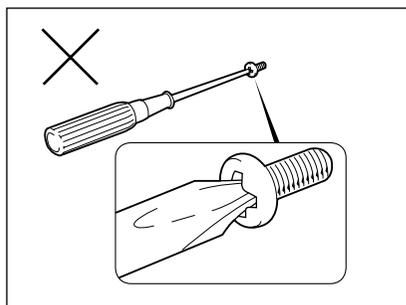
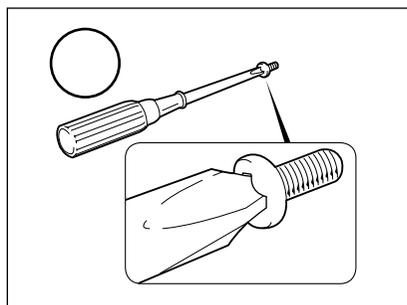
取りはずしたネジは紛失しないように注意してください。また、機器内部に落とさないでください。

ネジは数種類あります。取りはずしたネジは必ず元のネジ穴に取り付けてください。異常や故障が発生したら、『保守サービスのご案内』をご覧くださいのうえ、お近くのサービスステーションまたは、お買いあげの販売店にご相談ください。

オプションカードには鋭い突起があります。手を傷つけないようにしてください。

コネクタの接続、オプションカードの取り付けなどで、ドライバを使用する場合は、必ずネジにあったものをご使用ください。

ネジに合わないドライバは、十字穴にすきまができて安定しません。また、無理に使用すると、十字穴をつぶす原因になります。



本体へのケーブル接続は、コネクタの形状に注意して正しく差し込んでください。コネクタに無理な力が加わるとピンが折れたり曲がったりします。ケーブルのコネクタに固定用ネジがある場合は、ケーブルがはずれないようにネジをしめてください。電源コードの接続は、アース線、プラグの順に行なってください。取りはずす場合は、プラグ、アース線の順に行なってください。



注意

- ・この章で説明されている「6節 本体カバーの取りはずし、取り付け」以降の作業を行う前に、システムを終了させ、パソコン本体と接続されているすべての周辺機器の電源を切り、その後パソコン本体背面に接続されているすべてのケーブル類を取りはずしてください。パソコン本体を開け、作業を行う前に、電源を切り、ケーブル類を取りはずしておかないと、作業者のケガや機器の損傷を招くことがあります。
- ・本体カバーをはずして作業する場合、電源コードを抜いて1分以上たってから作業してください。機器の故障の原因となります。
- ・本体カバーをはずして作業する場合、内部には鋭利なところが多数ありますので、十分注意してください。なお、作業に際しては手袋をしてください。



お願い

- ・本体カバーを取りはずした状態での操作はしないでください。電源を入れる前には、必ず本体カバーを取り付けてください。

● 作業前の準備

システムの拡張作業で、次のような道具が必要になる場合があります。あらかじめ、ご用意ください。

- ・ + (プラス) ドライバ
- ・ 作業用手袋
- ・ 取りはずしたネジなどを入れる袋

● オプション取り付け時の設定

周辺機器によっては、セットアップでの設定が必要になるものがあります。

☞ 設定について

- ☞ 「5章 BIOS セットアップについて」、『各オプションに付属の説明書』

② LAN の接続

本装置は、Fast Ethernet LAN (100BASE-TX)、Ethernet LAN (10BASE-T)に対応しています。ここでは、LAN ケーブルの接続、LAN インタフェースをご使用になる際の注意事項および技術的な内容を説明します。

① 適正なケーブルの確認

LAN インタフェースを 100BASE-TX 規格 (100M ビット / 秒) でご使用になるときは、必ずカテゴリ 5 (CAT5) のケーブルおよびコネクタを使用してください。カテゴリ 3 のケーブルは使用できません。

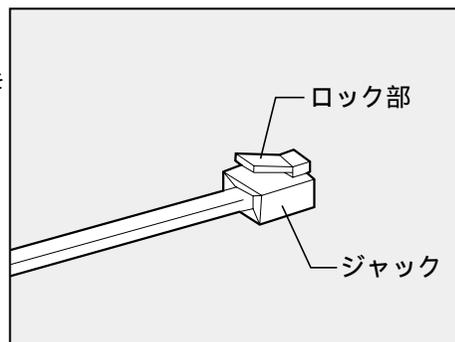
10BASE-T 規格 (10M ビット / 秒) でご使用になるときは、カテゴリ 3 または 5 のケーブルが使用できます。

② LAN ケーブルの接続

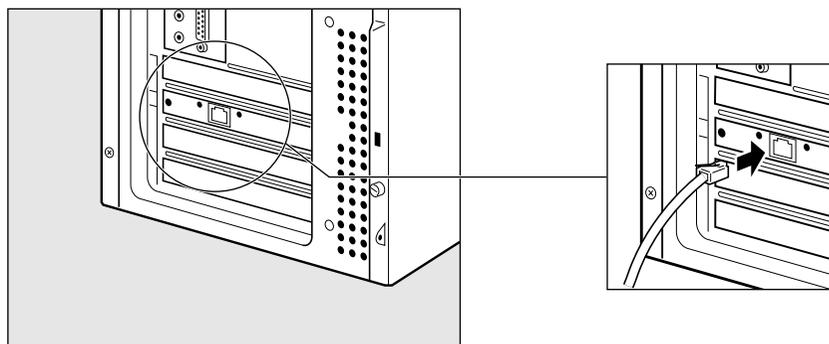


お願い

・LAN ケーブルをはずしたり差し込むときは、ジャックの部分を持って行なってください。また、はずすときは、ジャックのロック部を押しながらはずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。



- 1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する
- 2 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る
- 3 電源コンセントから電源コードのプラグを引き抜き、アース線を取りはずす
- 4 LAN ケーブルのジャックを本体背面の LAN コネクタに差し込む
パチンと音がするまで差し込んでください。



- 5 LAN ケーブルのもう一方のジャックを HUB (ハブ) のコネクタに差し込む
HUB (ハブ) の接続先やネットワークの設定は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

3 テクニカル情報

● Fast Ethernet ケーブル

100BASE-TX

100BASE-TXでは、2組のツイストペア・イーサネット（TPE）ケーブルによる100Mbpsの転送をサポートしており、カテゴリ5（CAT5）のケーブルを使用します。100BASE-TXのセグメント長は、最大100メートルに制限されています。

● Fast Ethernet HUB（ハブ）

さまざまなFast Ethernet仕様をサポートするHUBが次々に発表されています。これらのHUBは大きく分けて、シェアードHUBとスイッチングHUBの2つのタイプがあります。EQUIUMシリーズのLANインタフェースでは、どちらのタイプのHUBでも使用できます。

シェアードHUB（ハブ）

シェアードHUBを使用しているネットワーク環境では、全ポートが固定の帯域幅（データ容量）を共有しています。100MbpsのシェアードHUBの場合、ハブ上の全ノードが100Mbpsの帯域幅を共有しなければなりません。ハブに新たなステーションが追加されると、個々のステーションが使用できる有効帯域幅は減少します。シェアードHUBは、全車が1レーンを共有する単一レーンの高速道路にたとえられます。高速道路上に車が増えると、トラフィックは混雑し、各車の移動に要する時間は増大します。

シェアードHUBの場合、全ノードが同一の転送速度（10Mbpsまたは100Mbps）で動作しなければなりません。Fast Ethernet HUBの場合、10BASE-Tリピータの10倍の100Mbpsの帯域幅を提供します。

スイッチングHUB（ハブ）

スイッチングHUBを使用しているネットワーク環境では、各ポートに固定の専用帯域幅が割り当てられます。高速道路の例で言うと、各車が他の車と共有しない独自のレーンを持つことになります。

スイッチングHUBでは、データは送信先ステーションにつながるポートにだけ送信されます。ネットワークの帯域幅は全ステーションに共有されているのではなく、HUBに接続された個々のステーションがそれぞれのネットワークの全帯域幅を使用することができます。このためスイッチングハブではネットワークで使用できる帯域幅の合計が効果的に増大するので、パフォーマンスが大きく向上します。

スイッチングHUBでは、一部のノードを10Mbpsで使用し、他のノードを100Mbpsで使用できるものもあります。スイッチングハブは洗練された設計により、このようなパフォーマンス上の利点を持ちますが、1接続あたりの費用は一般にシェアードHUBより高価になります。

4 Windows 98 のネットワーク設定について

本装置をネットワークに接続する場合は、ネットワークの設定を行う必要があります。ネットワークの設定内容は、ネットワーク環境によって異なります。本装置を接続するネットワークの、ネットワーク管理者の指示に従って設定を行なってください。購入時は既定値 (Default) が設定されています。既定値のままネットワークに接続すると、ネットワークに障害をもたらす場合があります。また、セットアップが終了し、Windows 98 の起動時に、ネットワークパスワードを入力する必要がある場合があります。後述の「起動時のパスワードの入力」を参照のうえ、パスワードを入力してください。



注意 ・購入時は、ネットワークの設定は既定値になっています。Windows のセットアップ時に LAN ケーブルを接続していると、ネットワークの設定が既定値のままネットワークに接続してしまい、ネットワークに障害をもたらす場合があります。必ず、LAN ケーブルをはずした状態で Windows のセットアップを行なってください。



お願い

・ネットワーク設定は、ネットワーク管理者の指示に従ってください。

● ネットワークの設定

- 1 [スタート] ボタンをクリックし、[設定]- [コントロールパネル] をクリックする
- 2 [ネットワーク] アイコンをダブルクリックする
- 3 [ネットワークの設定] タブをクリックし、変更を行う
コンピュータに接続されているネットワークアダプタによって、画面内のアダプタ名は異なります。



(注) 画面は一例です。

ネットワーク管理者の指示に従い、ネットワークの設定を行なってください。

- ネットワーククライアント ほかのコンピュータに接続する機能です。
- プロトコル コンピュータが通信するための言語です。通信する複数のコンピュータどうしは、同じプロトコルを使用する必要があります。
- アダプタ コンピュータを物理的に接続するハードウェアデバイスです。
- サービス このコンピュータのファイルやプリンタなどのリソースを、ほかのコンピュータから使えるようにします。

4 [識別情報] タブタブをクリックし、コンピュータ名、ワークグループ名をネットワーク管理者の指示に従い、設定する

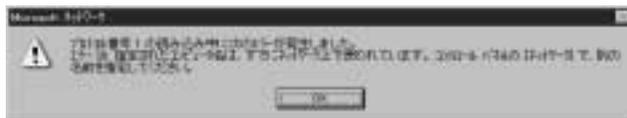


(注) 画面は一例です。



注意

- ・コンピュータ名とワークグループは必ず既定値 (Default、Default_Wg) の状態から変更してください。既定値のままのコンピュータを複数台ネットワークに接続しますと、コンピュータ名が重複し、次のエラーメッセージが表示されますので、必ず重複しないコンピュータ名を付けてください。



5 [アクセス権の制御] タブをクリックし、変更を行う



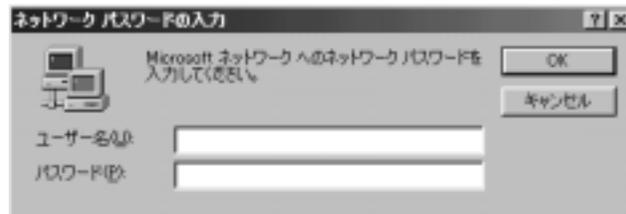
ネットワーク管理者の指示に従い、共有リソースへのアクセス権の管理方法を設定します。

6 設定が終了したら、[OK] ボタンをクリックし、パソコン本体を再起動する

● 起動時のパスワードの入力

1 パソコンの電源を入れる

- 2 ネットワーク管理者の指示に従い、ユーザー名と、パスワードを入力する
ここで表示される画面は、ネットワークの設定内容によって異なります（ネットワーククライアントの種類、ドメインサーバにログインするかどうかなど）。ここでは、次の画面を例にあげていますが、他の画面の場合もネットワーク管理者の指示に従い、入力してください。



・パスワードは、忘れないようにメモすることをおすすめします。

メモ

5 Windows 2000 のネットワーク設定について

ネットワークに接続する場合は、ネットワークの設定を行う必要があります。ネットワークの設定内容は、ネットワーク環境によって異なります。ネットワーク管理者の指示に従って設定を行なってください。



お願い

・ネットワーク設定やコンピュータ識別は、必ずネットワーク管理者の指示に従ってください。

- 1 Administrators グループのユーザアカウントでログオンする
- 2 [スタート] ボタンをクリックし、[設定]-[コントロールパネル] をクリックする
- 3 [ネットワークとダイヤルアップ接続] アイコンをダブルクリックする
- 4 [ローカルエリア接続] アイコンにマウスのポインタを合わせて右クリックする
- 5 プロパティを選択する
- 6 ネットワーク接続の設定を行う

セットアップ時に設定した構成になっています。
本製品の標準設定の場合、次のようになっています。

アダプタ : Intel (R) PRO/100 + Management Adapter
 クライアント : Microsoft ネットワーク用クライアント
 サービス : Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有
 プロトコル : インターネットプロトコル (TCP/IP)

● ネットワーク上でのコンピュータ識別

- 1 Administrators グループのユーザアカウントでログオンする
- 2 [スタート] ボタンをクリックし、[設定]-[コントロールパネル] をクリックする
- 3 [システム] アイコンをダブルクリックする
- 4 [ネットワーク ID] タブを選択する
- 5 ネットワーク ID とプロパティの設定を行う
 コンピュータ名、ドメイン/ワークグループ名はセットアップ時に設定した構成になっています。
 変更する場合はここで再設定してください。

6 Windows NT のネットワーク設定について

本装置をネットワークに接続する場合は、ネットワークの設定を行う必要があります。ネットワークの設定内容は、ネットワーク環境によって異なります。本装置を接続するネットワークの、ネットワーク管理者の指示に従って設定を行なってください。



注意 ・ご購入時は、ネットワークの設定は既定値になっています。Windows のセットアップ時に LAN ケーブルを接続していると、ネットワークの設定が既定値のままネットワークに接続してしまい、ネットワークに障害をもたらす場合があります。必ず、LAN ケーブルをはずした状態で Windows のセットアップを行なってください。



お願い

・ネットワークの設定は、ネットワーク管理者の指示に従ってください。

● ネットワークの設定

- 1 Administrators グループのユーザアカウントでログオンする
- 2 [スタート] ボタンをクリックし、[設定] - [コントロールパネル] をクリックする
- 3 [ネットワーク] アイコンをダブルクリックする
- 4 識別、サービス、プロトコル、アダプタ、バインドの設定を行う
詳細は付属の『ファーストステップガイド Microsoft Windows NT Workstation』の「ネットワークへの接続」の章をご覧ください。
なお、出荷時のネットワークの構成は次のようになっています。

アダプタ	: Intel (R) PRO/100 + Management Adapter
プロトコル	: NetBEUI
識別	: WORKGROUP
コンピュータ名	: 初期セットアップ時に入力した名前

プロトコル等を追加する場合「Windows NT Workstation Ver4.0 Disc1 ラベルの付いた CD-ROM を挿入してください」という画面が表示される場合があります。この場合は、「ファイルのコピー」画面の「ファイルのコピー元 (C :)」に「C: ¥i386」と入力して [OK] ボタンを押してください。



注意 ・TCP/IP プロトコルなどを追加した場合には、設定完了後、Windows NT Service Pack6 をインストールしてください。



Service Pack6 のインストールについて

⇒ 「付録 3-2-Service Pack6 のインストールについて」

● 起動時のパスワードの入力

- 1 パソコンの電源を入れる
- 2 ネットワーク管理者の指示に従い、ユーザー名とパスワードを入力する
ここで表示される画面は、ネットワークの設定内容によって異なります（ネットワーククライアントの種類、ドメインサーバにログインするかどうかなど）。ここでは、次の画面を例にあげていますが、他の画面の場合もネットワーク管理者の指示に従い、入力してください。



・パスワードは、忘れないようにメモすることをおすすめします。

メモ

③ プリンタの接続

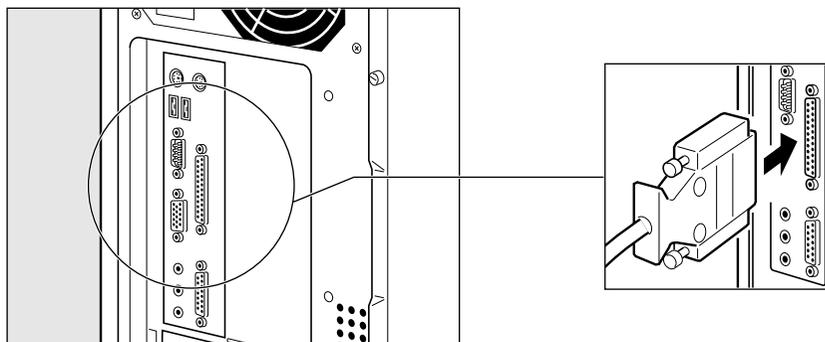
① プリンタの接続



メモ

・プリンタの接続はプリンタによって異なります。詳しくは『プリンタに付属の説明書』をご覧ください。

- 1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する
- 2 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る
- 3 電源コンセントから電源コードのプラグを引き抜き、アース線を取りはずす
- 4 プリンタケーブルを本体背面の平行コネクタ  に差し込む
コネクタの形状に合わせてしっかりと奥まで差し込んでください。また、プリンタケーブルに固定用ネジがあるときは手またはドライバなどでしっかり回して固定してください。



- 5 もう一方のプリンタケーブルをプリンタ側コネクタに差し込む
コネクタの形状に合わせてしっかりと奥まで差し込んでください。また、プリンタ側のコネクタに金具がついている場合は、金具でプリンタケーブルを固定してください。

② プリンタ設定について

ここでは本体に接続したプリンタを使用可能にする設定方法を説明します。
Windows 98 での画面表示を例にして説明します。Windows 2000 / NT の場合、
画面は異なります。

☞ 詳細について ☞ 『ご使用のプリンタに付属の説明書』

- 1 [スタート] ボタンをクリックして、[設定]-[プリンタ] をクリックする
次の [プリンタ] の設定画面が表示されます。



- 2 [プリンタの追加] アイコンをダブルクリックする

次の [プリンタの追加ウィザード] が表示されます。

[次へ] ボタンをクリックすると次の設定に移ります。以降の設定作業は、画面に表示される
質問に答えながら作業を進めます。



プリンタ設定作業の途中で、次の [プリンタの追加ウィザード] 画面が表示されます。
ここでは、プリンタの製造元とプリンタ名を選択して [次へ] ボタンをクリックします。
一覧にない場合は、プリンタの製造元から配給されたプリンタドライバのインストールディスクをセットし、[ディスク使用] ボタンをクリックします。



(注) 画面は一例です。

プリンタ設定作業の途中で、次の [プリンタの追加ウィザード] 画面が表示されます。
ここでは利用するポートを選択します。
プリンタが本体のプリンタコネクタと接続されているときは、[LPT1 : プリンタポート] を
選択して [次へ] ボタンをクリックしてください。



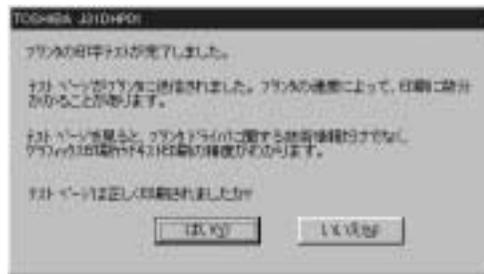
(注) 画面は一例です。

プリンタ設定作業の途中で、次の [プリンタの追加ウィザード] 画面が表示されます。
ここではプリンタ機能が正常かどうかを確認するために、テストページを印刷するかを選択
します。

印刷する場合は、[はい (推奨)] をチェックし、しない場合は [いいえ] をチェックして [完了] ボタンをクリックしてください。



[はい (推奨)] をチェックした場合、しばらくすると「プリンタの印字テストが完了しました」というメッセージの画面が表示されます。テストページが正しく印刷されているときは、[はい] ボタンをクリックしてください。印刷結果に異常がある場合は、[いいえ] ボタンをクリックしてください。『Windows のヘルプ』が表示されますので、質問に答えながら設定を変更してください。また、本体とプリンタが正しく接続されているかも確認してください。



(注) 画面は一例です。

[プリンタ] の設定画面に戻り、新規に登録されたプリンタのアイコンが表示されます。これでプリンタの設定作業は終了です。

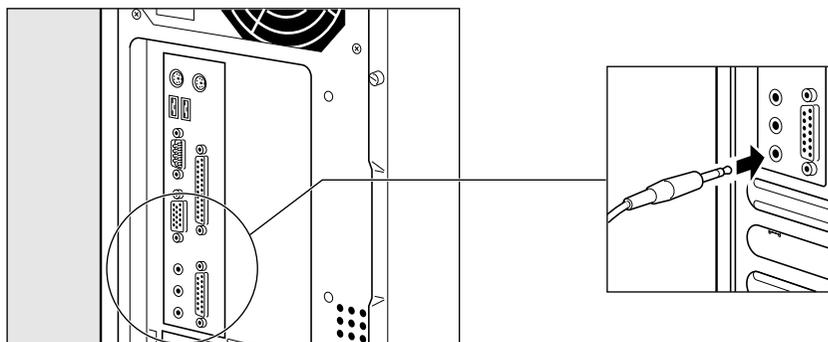


(注) 画面は一例です。

4 マイク（別売り）の接続

本製品では、マイク（別売り）を接続できます。使用可能なマイクは、インピーダンス 600 以上のコンデンサマイクロホンの 3.5 mm モノラルミニジャックタイプです。

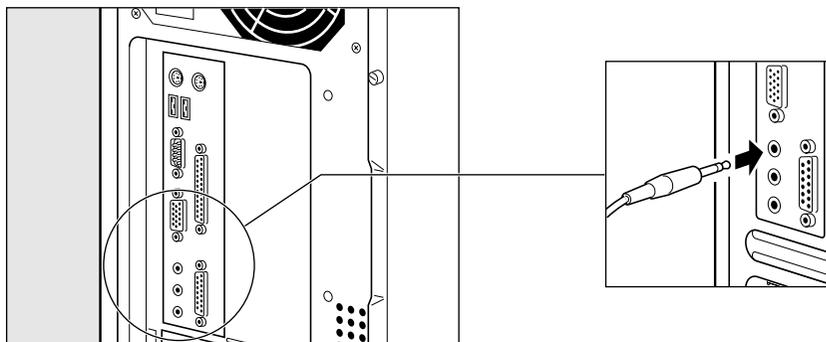
- 1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する
- 2 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る
- 3 電源コンセントから電源コードのプラグを引き抜き、アース線を取りはずす
- 4 マイクのプラグを本体背面のマイク端子  に差し込む
しっかりと奥まで差し込んでください。



5 スピーカ（別売り）の接続

本製品では、アンプ付きスピーカ（別売り）を接続できます。

- 1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する
- 2 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る
- 3 電源コンセントから電源コードのプラグを引き抜き、アース線を取りはずす
- 4 スピーカのプラグを本体背面の LINE OUT 端子 (☎) に差し込む
しっかりと奥まで差し込んでください。



6 本体カバーの取りはずし、取り付け

- !** 注意 ・オプションの装着などの取り付け・取りはずし以外では、本体カバーを開けないでください。故障の原因となる可能性があります。
・本体カバーや基板などで指を傷つけないように、作業用手袋の使用をおすすめします。

システムを拡張する場合、さまざまなオプションの取り付け位置は本体内部であるため、本体カバーを取りはずすことが必要です。

先に本体カバーの取りはずし方、取り付け方をまとめて説明します。

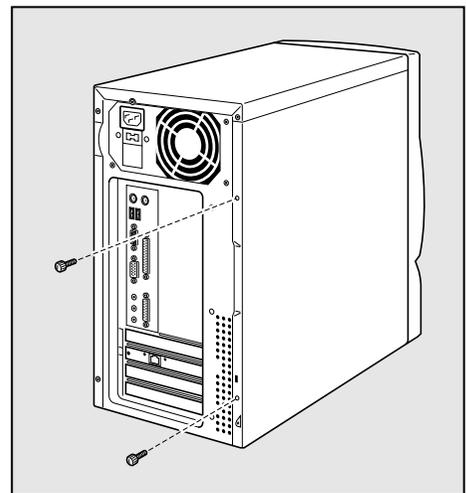
それぞれのオプションの取り付け、取りはずしについては次節より説明します。

1 本体カバーの取りはずし

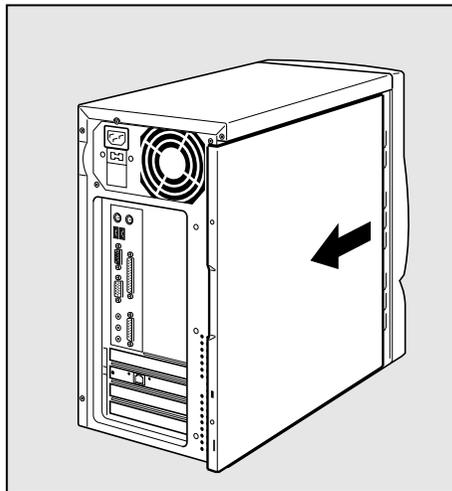
- 1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する
- 2 パソコン本体の電源を切る
- 3 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る
- 4 電源コンセントから電源コードのプラグを引き抜き、アース線を取りはずし、本体背面に接続されているすべてのケーブルを取りはずす

- !** 注意 ・電源を切っただけではメインボードなどは通電状態となっています。通電状態でコネクタの抜き差しを行うと、故障の原因となります。
必ず電源コードを抜いてから作業を行ってください。

- 5 本体背面のネジ 2 本をはずす

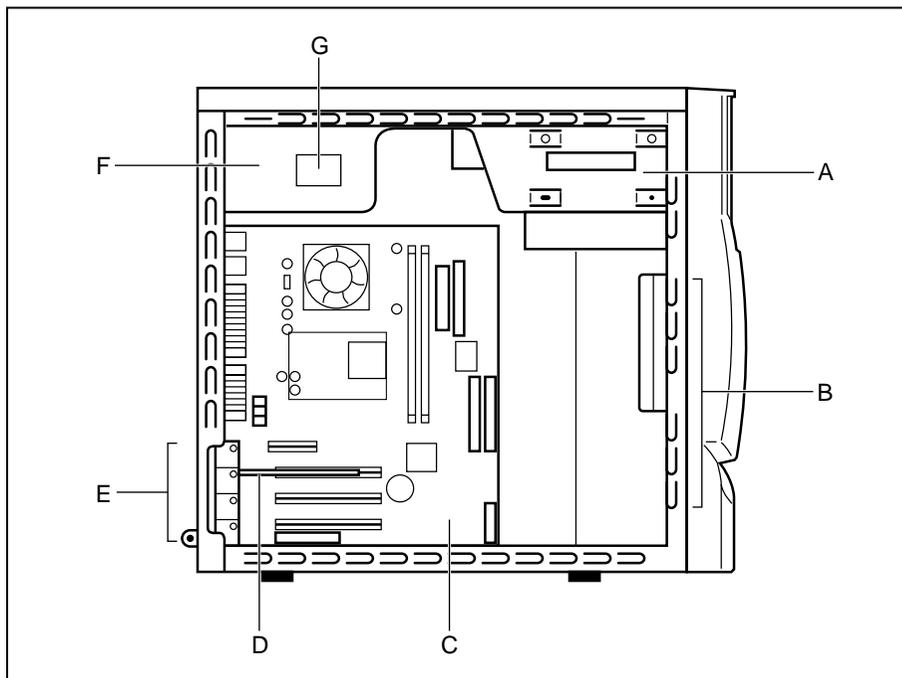


6 本体カバーを後方へずらし、取りはずす



注意 ・カバーの取り扱いに注意してください。
落としたり、ぶついたりして手や足をケガするおそれがあります。

② 本体カバーを取りはずしたところ（横面から）



F、G 以外はユーザ作業エリアです。

A .ファイルスロット

CD-ROM 装置 1 個が標準で内蔵 5 型ベイは 1 個

B. ハードディスクスロット

ハードディスク装置 1 個が標準で内蔵

C .メインボード

D .LAN カード

E .拡張スロット

F .電源ユニット

G. 電源警告ラベル

（電源ユニットのカバーははずさないでください。内部には高電圧部分があり、感電・火災・故障のおそれがあります。）

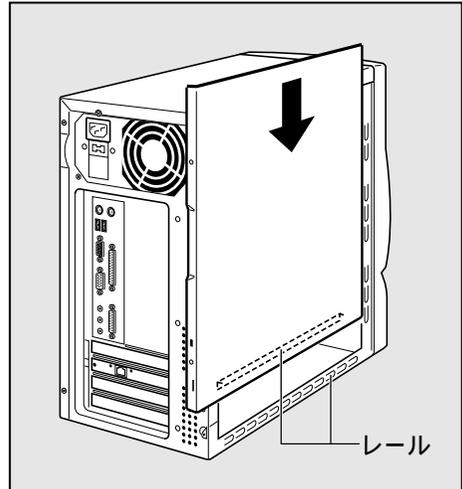


注意 ・ユーザ作業エリア以外は分解しないでください。

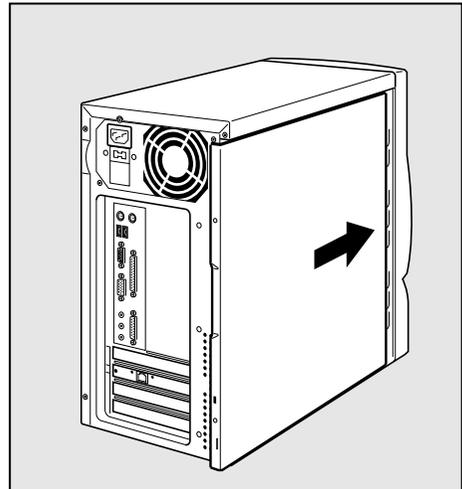
高電圧部による感電のおそれがありますので、絶対に触れないでください。

3 本体カバーの取り付け

- 1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する
- 2 工具類や部品類を本体内部に残していないこと、部品類の取り付けが正しく、しっかり行われていることを確認する
- 3 本体カバーを、本体前面から 2 cm 程度離れた位置に、下側のレールを本体に合わせてのせる

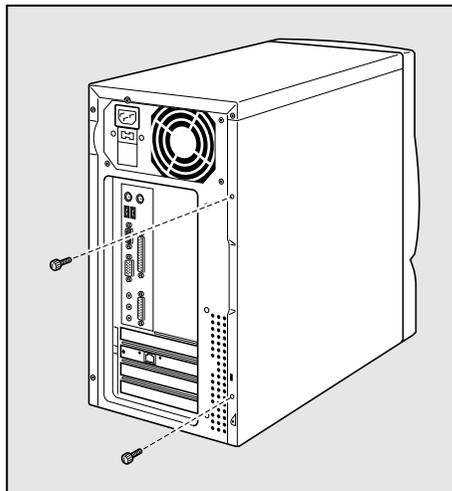


- 4 前方にスライドさせる



注意 ・ケーブル類をはさみ込まないようにしてください。

5 本体背面にネジ 2 本を取り付け、固定する



7 オプションカード



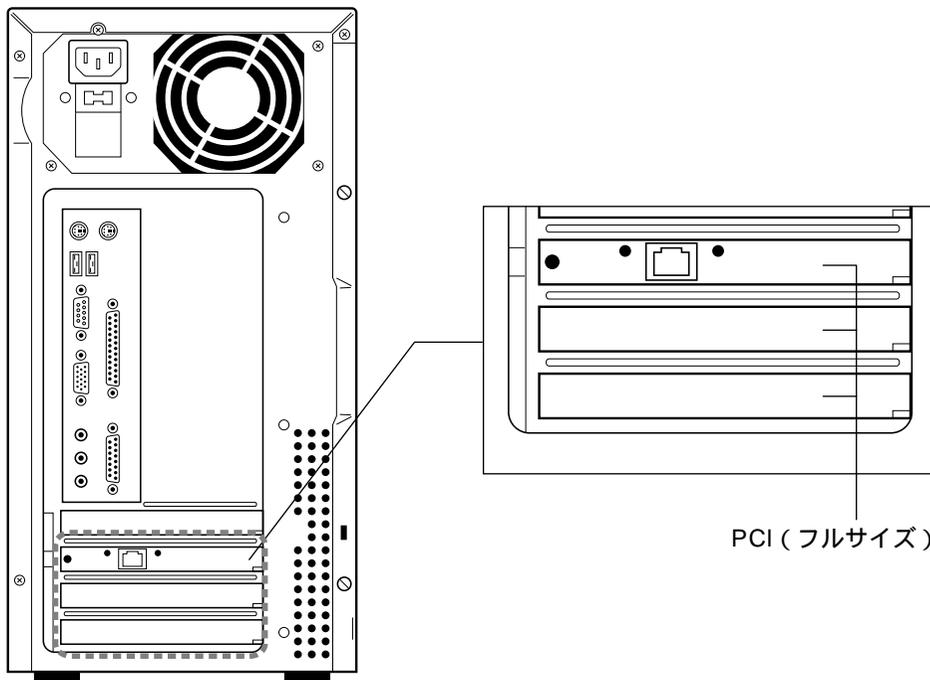
・PC97 規格に対応していないカードは正常に動作しない場合があります。

お願い

1 拡張スロットの位置

本体には PCI カード用のフルサイズの拡張スロットが合計 3 個用意されています（内 1 つは、LAN カードで使用）。

本製品では、PC97 規格に対応したオプションカードを使用できます。



注意 ・オプションカードの取り付けに際しては、拡張スロットの電流容量を超えないように注意してください。

👉 電流容量について

- ⇒ 「付録 2-8- 拡張スロットの電流容量」
- ⇒ 『各オプションカードに付属の説明書』



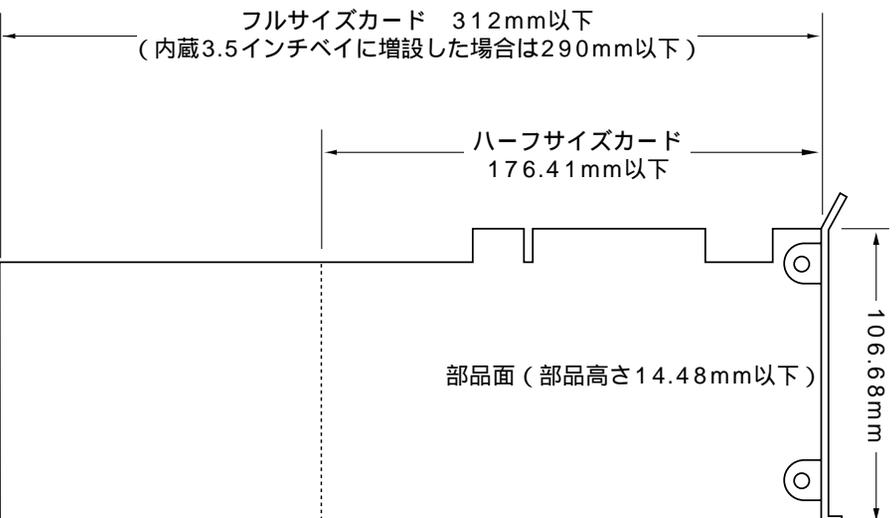
お願い

・オプションカードは、特に静電気に対して敏感で、その取り扱いには注意が必要です。カードを持つときは、カードの縁を持つようにして、部品や金メッキ部分には触らないようにしてください。保護袋や本体からカードを抜き出したときには、水平で、接地された、静電気の無いところに、部品面を上にして置くようにしてください。カードは、どんな面の上でも、滑らせて移動させないでください。

● オプションカード外形図

各スロット用のカードの種類と本体に装着可能なカードの外形図を示します。

● PCI タイプカード外形図



② オプションカードの取り付け



・この作業を行うとき、メインボードや他のボードの部品を損傷しないように注意してください。

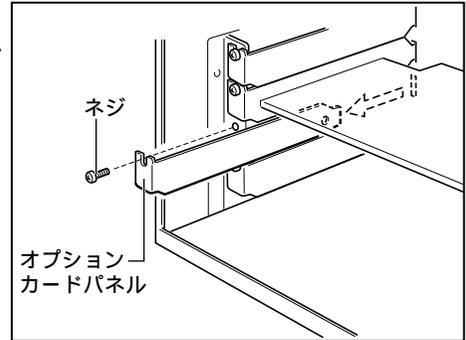
お願い

1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する

2 本体カバーを取りはずす

☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」

3 オプションカードパネルを固定しているネジ 1 本をはずしてパネルを取りはずす
取りはずしたパネルは、大切に保管しておいてください。



4 保護袋からオプションカードを抜き出し、水平で、接地された、静電気の無いところに、部品面を上にして置く

保護袋は再度取りはずしたときのために保管しておいてください。

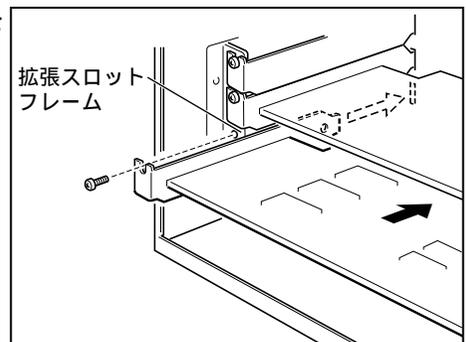
5 オプションカードのジャンパやスイッチの設定が必要な場合は、付属の説明書に従って設定する



メモ

・Windows NT の場合、プラグアンドプレイには対応していません。

6 カードの上の縁、または上の角のところを持って、図のようにカードをセットする
オプションカードのエッジ（金メッキ部分）を拡張スロットコネクタにしっかり合わせて押し入れます。



注意 ・オプションカードには鋭い突起があります。取り付け作業時には、指を傷つけないように、作業用手袋の使用をおすすめします。

7 拡張スロットフレームのネジ穴と、オプションのコネクタパネルの切れ込みを合わせる

コネクタパネルは、オプションカードパネルのあった場所にぴったりと納まります。

8 ネジを止める

ネジをしめる前に、コネクタパネルをネジの方に、上に寄せるようにします。これを怠ると、このパネルが、隣のスロットのカバーやオプションカードに接触してしまいます。

9 必要があれば取り付けしたオプションカードにケーブル類を接続する

10 本体カバーを取り付ける

☞「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」

3 オプションカードの取りはずし

オプションカードの取りはずし方法について説明します。取り付け時の図を参照しながら作業を進めてください。

☞「本節 2 オプションカードの取り付け」

1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する

2 本体カバーを取りはずす

☞「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」

3 オプションカードに接続されているケーブルがあれば、はずす

再度取り付けるときのために、取りはずしたケーブルは大切に保管しておいてください。

4 オプションカードのコネクタパネルと本体を止めているネジをはずす

5 オプションカードの縁を持って、カードが拡張スロットコネクタからはずれるまで引き抜く



注意 ・オプションカードには鋭い突起があります。オプションカードを引き抜くときは手を傷つけないよう手袋などで保護してください。

6 オプションカードを、静電気対策された保護袋に入れて保管する

7 取りはずしたときに保管してあったオプションカードパネルを取り付けて、ネジ止めする



注意 ・空いたスロットには必ずオプションカードパネルをつけるようにしてください。電磁ノイズと機器の冷却に問題が起きることがあります。

8 本体カバーを取り付ける

☞「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」

8 増設ハードディスク装置

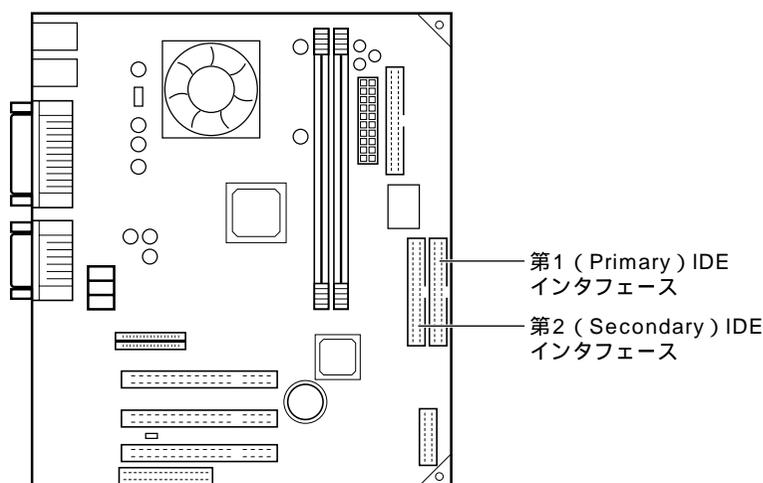
本装置の、IDE インタフェースにIDE ハードディスク装置を接続し、増設する方法について説明します。

1 IDE インタフェースについて

IDE 装置は、本装置のメインボード上の第 1 (Primary) IDE インタフェースに 2 台、第 2 (Secondary) IDE インタフェースに 1 台の、合計 3 台まで接続することができます。

それぞれの IDE インタフェースに接続する装置は、1 台目をマスタ (Master)、2 台目をスレーブ (Slave) と呼びます。

本装置ではすでに、第 1 (Primary) IDE インタフェースのマスタ (Master) にハードディスク装置、第 2 (Secondary) IDE インタフェースのマスタ (Master) に CD-ROM 装置が接続されています。



2 増設ハードディスク装置のジャンパについて

IDE インタフェースに増設ハードディスク装置を接続する場合は、各増設ハードディスク装置にマスタ (Master) とスレーブ (Slave) の設定を行う必要があります。

● 接続時の注意

本装置に IDE 装置を増設する場合は、必ず次の表のように増設を行なってください。

第 1 (Primary) IDE インタフェース		第 2 (Secondary) IDE インタフェース
マスタ (Master)	スレーブ (Slave)	マスタ (Master)
ハードディスク装置接続済	増設 1 台目	CD-ROM 装置接続済

☞ 増設ハードディスク装置の取り付け ☜ 『増設ハードディスク装置に付属の説明書』



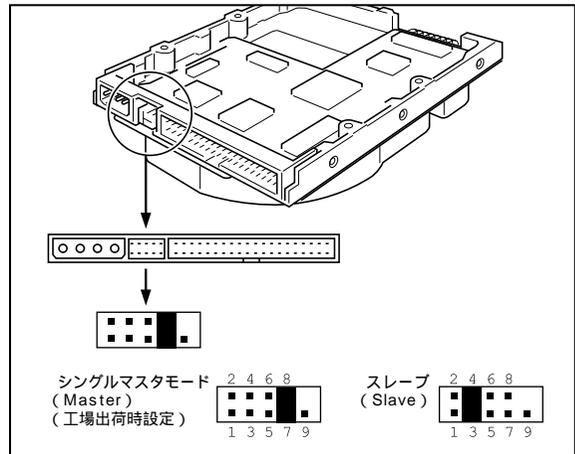
注意 ・増設ハードディスク装置はEQUIUM専用のオプションをお買い求めください。取り付けについてはオプションに付属の説明書をご覧ください。
 なお、PV3000シリーズ専用の増設ハードディスク装置は、ご利用になることはできません。

● 第1 (Primary) IDE インタフェースにハードディスク装置を増設する場合

接続済みのハードディスク装置背面のジャンパストラップをシングルモードからマスタ (Master) に変更し、増設するハードディスク装置の設定をスレーブ (Slave) にしてください。

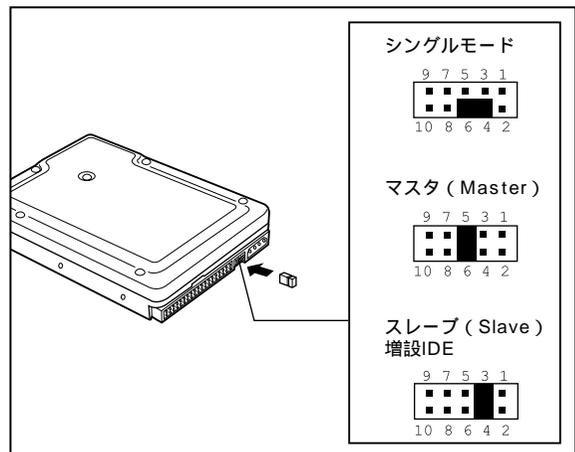
接続する増設ハードディスク装置のタイプ (A / B) によってジャンパの設定が異なります。接続する装置に合った設定を行なってください。

タイプAの設定



・ハードディスク装置を1台で使用する場合は、ジャンパストラップをシングルマスタ (Master) モードに設定してください。スレーブ (Slave) の設定では、動作しません。

タイプBの設定



・ハードディスク装置を1台で使用する場合は、ジャンパストラップをシングルモードに設定してください。マスタ (Master)、スレーブ (Slave) の設定では、動作しません。

● 第2(Secondary)IDE インタフェースにハードディスク装置を増設する場合

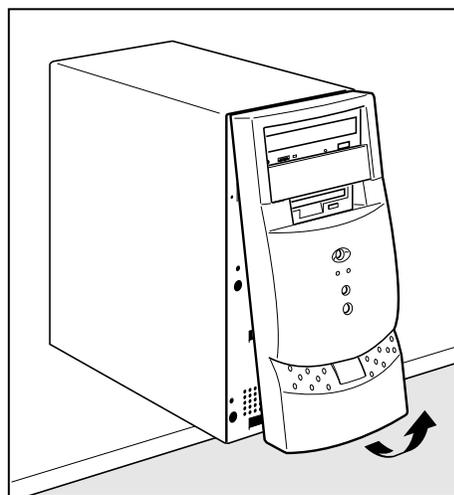
第2(Secondary)IDE インタフェースには、1台のみ接続可能です(接続済みのCD-ROM装置は、出荷時にマスタ(Master)に設定されています)。

③ 増設ハードディスク装置の取り付け

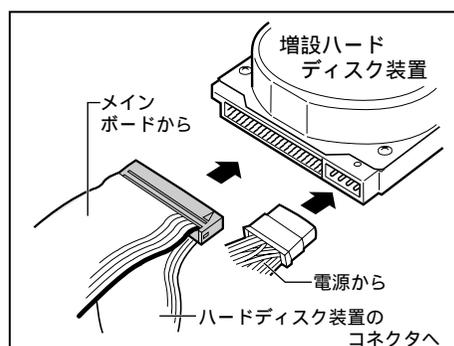
- 1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する
- 2 本体カバーをはずす
☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」
- 3 安定した台の端に本体を置く
- 4 フロントベゼルを取りはずす
フロントベゼル底面のくぼみに手をかけ、手前に強く引いてください。



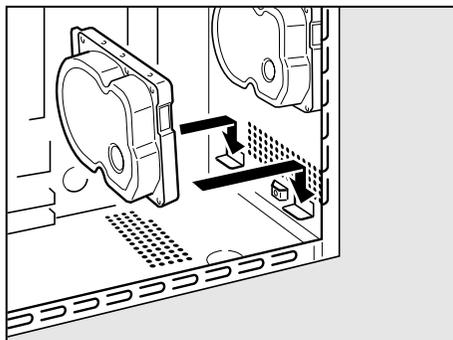
注意 ・台から本体が落ちないように、しっかりとおさえて作業を行なってください。



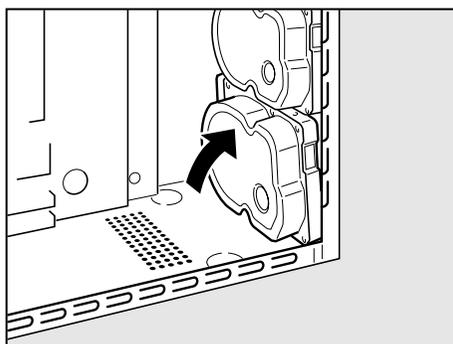
- 5 装置にケーブルを接続する
このときコネクタの向きに注意してください。
装置を取りはずして、そのあとに取り付けを行わないのであれば、ケーブルはメインボードのコネクタからはずしておいてください。



- 6** ハードディスクの底面を、本体の増設ハードディスク装置用の台にのせる

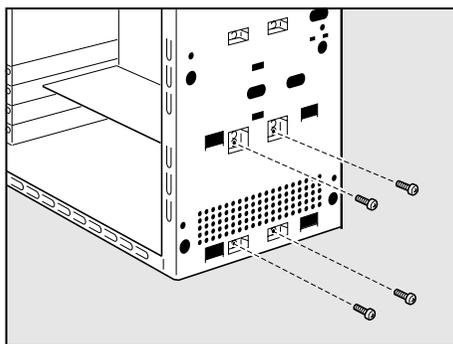


- 7** 倒れないように手でおさえ、ネジ穴の位置を合わせる

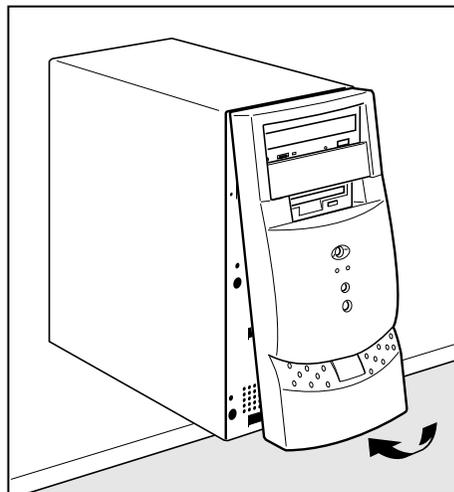


注意 ・ハードディスクを取り付けるときに、ケーブル類をはさみ込まないようにしてください。故障の原因となるおそれがあります。

- 8** ネジ 4 本で 3.5 型ドライブキャリアを本体に止める



- 9** フロントベゼルを取り付ける
CD-ROM 装置の位置を合わせてかぶせ、フロントベゼル中程と下側の左右を押しつつメを押し込み、固定します。



- 10** 本体カバーを取り付ける
☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」

4 増設ハードディスク装置の取りはずし

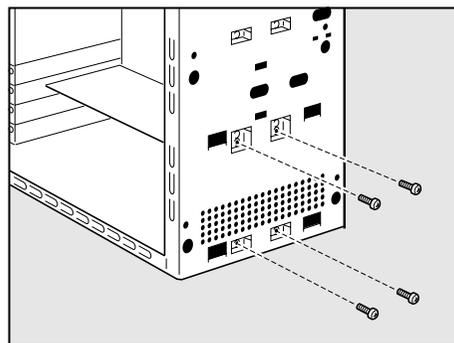
増設ハードディスク装置の取りはずし方法について説明します。取り付け時の図を参照しながら作業を進めてください。

☞ 「本節 3 増設ハードディスク装置の取り付け」

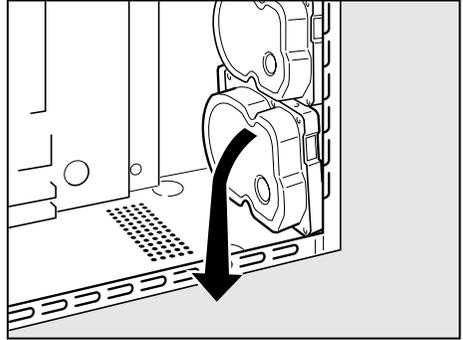
- 1** 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する
- 2** 本体カバーをはずす
☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」
- 3** 安定した台の端に本体を置く
- 4** フロントベゼルを取りはずす

! 注意 ・台から本体が落ちないように、しっかりとおさえて作業を行なってください。

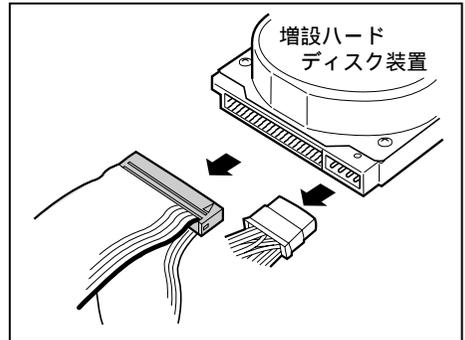
- 5** 増設ハードディスク装置を固定しているネジ 4 本をはずす
増設ハードディスク装置が倒れないように手で押さえながらネジをはずしてください。



- 6** 本体から増設ハードディスク装置を取りはずす



- 7** 増設ハードディスク装置からケーブルをはずす



☞ ケーブル機器の接続関係について ⇨ 「本章 12 内部ケーブルの接続」
再接続の際に、間違った接続をすると故障の原因となりますのでご注意ください。

- 8** フロントベゼルを取り付ける

- 9** 本体カバーを取り付ける

☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」

5 増設ハードディスク装置の設定

何もインストールされていないハードディスク装置を増設した後、システムに認識させるには、次の操作が必要です。

☞ ハードディスク装置の増設方法 ☞ 「本節 3 増設ハードディスク装置の取り付け」

Windows 98 の場合

- 1 Windows 98 を起動し、[スタート] ボタンをクリックし、[プログラム] - [MS-DOS プロンプト] を選択する
[MS-DOS プロンプト] 画面が表示されます。
- 2 FDISK と入力し、[Enter] キーを押す
次の画面が表示されます。

512MB以上のディスクがあります。このバージョンのWindowsでは、大容量のディスクのサポートが強化され、ディスク領域を有効に使えるようになりました。2GB以上のドライブを1つのドライブとしてフォーマットできます。

重要：大容量ディスクのサポートを使用可能にして、このディスクに新しいドライブを作成した場合、ほかのオペレーティングシステムを使ってこの新しいドライブにアクセスすることはできません（Windows 95とWindows NTの特定のバージョン、以前のバージョンのWindowsとMS-DOSを含む）。また、FAT32ファイルシステム用に設計されていないディスクユーティリティは、正常に動作しません。このディスクで他のオペレーティングシステムや以前のディスクユーティリティにアクセスする必要がある場合、大容量ドライブのサポートは使用しないでください。

大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか (Y/N)?[N]

[Y] を選択すると、FAT32 ファイルシステムに対応したオペレーティングシステム (EQUIUM を含む) のみ使用可能になります。

[N] を選択すると、(旧)バージョンのWindows 95 でも使用可能になります。選択後、[Enter] キーを押すと FDISK オプションが起動します。

FDISKオプション

現在のハードディスク： 1

次のうちからどれかを選んでください：

1. MS-DOS領域または論理MS-DOSドライブを作成
2. アクティブな領域を設定
3. 領域または論理MS-DOSドライブを削除
4. 領域情報を表示
5. 現在のハードディスクドライブを変更

どれかを選んでください： [1]

FDISKを終了するにはEscキーを押してください。

- 3 [5] [Enter] とキーを押す
メニューの [5. 現在のハードディスクドライブを変更] が選択されます。
- 4 [2] [Enter] とキーを押す
増設したディスク 2 のハードディスク装置が選択され、FDISK オプションの初期画面に戻ります。

5 [1] [Enter] とキーを押す

[1. MS-DOS 領域または論理 MS-DOS ドライブを作成] が選択されます。

6 [1] [Enter] とキーを押す

[1. 基本 MS-DOS 領域を作成] が選択されます。

7 [Enter] キーを押す

基本 MS-DOS 領域に使用できる最大サイズが割り当てられます。

8 [Esc] キーを 3 回押し、FDISK オプションを終了する

9 EXIT と入力し、[Enter] キーを押す

MS-DOS プロンプトが終了します。

10 [スタート] ボタンをクリックし、[Windows の終了] - [コンピュータを再起動する] を選択し、[はい] を選択する

システムが再起動します。

[マイコンピュータ] を起動し、増設したハードディスク (D :) が表示されていることを確認してください。



11 [マイコンピュータ] 画面から [D :] ドライブを選択する

12 [ファイル] メニューから [フォーマット] を選択する

[フォーマット] 画面が表示されます。タイトルバーに「フォーマット (D :)」と表示されていることを確認してください。



注意 ・選択するドライブを間違えないでください。フォーマットすると、ディスクの内容はすべて消去されてしまいます。

**13** [フォーマットの種類] から [通常のフォーマット] を選択し、[開始] ボタンをクリックする

警告のメッセージが表示されます。



14 確認し、[OK] ボタンをクリックする

フォーマットが終了すると、結果が表示されます。確認して [閉じる] を選択してください。

フォーマット終了後、スキャンディスク (ディスクのエラーをチェックする機能) が起動します。スキャンディスクが必要な方はメッセージに従って操作してください。

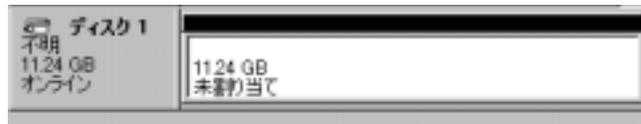
以上で増設ハードディスク装置の設定が終了し、使用できるようになります。



注意 ・増設ハードディスク装置の設定終了後は、システムを再起動してください。
再起動しないとログファイル名を使用できない場合があります。

● Windows 2000 の場合

- 1 Windows 2000 を起動し、Administrators グループのユーザアカウントでログオンする
- 2 [スタート] ボタンをクリックし、[設定]-[コントロールパネル] をクリックする
- 3 [管理ツール] アイコンをダブルクリックし、[コンピュータの管理] をダブルクリックする
- 4 [記憶域]-[ディスクの管理] をクリックする
ハードディスクを増設した後の最初の起動では、増設したハードディスク (例: ディスク 1) は [不明] と表示されます。



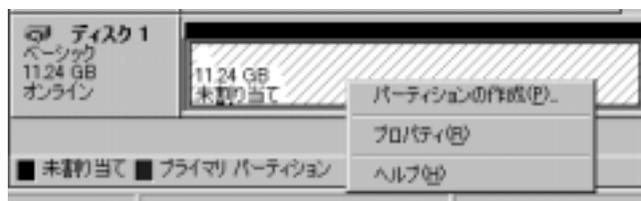
(注) 画面は一例です。

- 5 [ディスク 1] の領域を右クリックし、表示されるメニューで [署名] をクリックする
- 6 署名するディスクをチェックし [OK] ボタンをクリックする
増設したハードディスク (例: ディスク 1) は [ベーシック] と表示されます。



(注) 画面は一例です。

- 7 増設したハードディスク (例: ディスク 1) の [未割り当て] の領域を右クリックする



(注) 画面は一例です。

- 8 表示されるメニューで [パーティションの作成] をクリックする [パーティションの作成ウィザード] が起動します。



(注) 画面は一例です。

- 9 [次へ] ボタンをクリックし、ウィザードに従って設定する

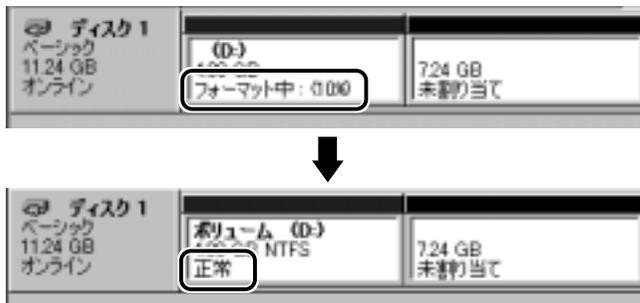
- ・パーティションの種類
- ・パーティションサイズ
- ・ドライブ文字またはパスの割り当て
- ・フォーマット
- ・ファイルシステム

プライマリパーティション、または拡張パーティションの作成ができますが、ここではプライマリパーティションを 4GB・NTFS フォーマットで作成した場合を想定しています。設定が完了すると、確認画面が表示されます。



(注) 画面は一例です。

- 10** 設定内容を確認し、[完了] ボタンをクリックする
フォーマットが開始されます。
パーティションのステータスが[正常]に変われば完了です。



(注)画面は一例です。

詳しくは「コンピュータの管理」のヘルプをご覧ください。

ヘルプの起動方法

[コンピュータの管理]-[操作]-[ヘルプ]をクリックする

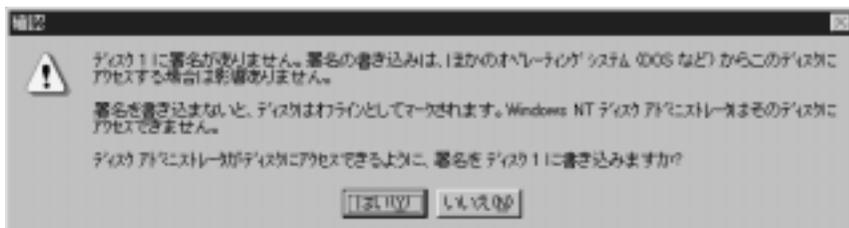
Windows NT の場合

☞ ハードディスク装置の増設方法 ☞ 「本節 3 増設ハードディスク装置の取り付け」

- 1** Windows NT を起動し、Administrator 権限でログオンする
Administrator 権限のあるユーザ名、パスワードでログオンしてください。権限がない場合は、ネットワーク管理者に相談してください。
☞ 「2章 2-4 Windows NT のセットアップ」
- 2** [スタート] ボタンをクリックし、[プログラム]-[管理ツール(共通)]-[ディスクアドミニストレータ]をクリックする
ハードディスクを増設した後の最初の起動では、次のような画面が表示されます。

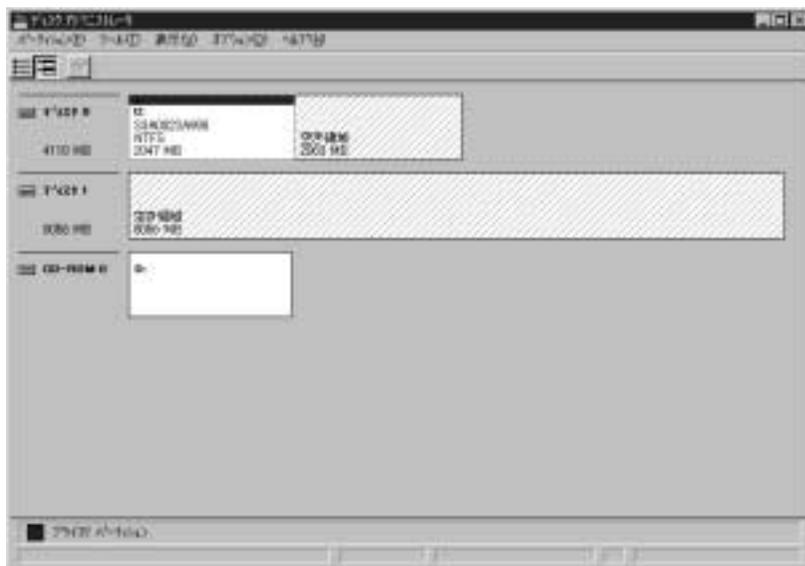


- 3** [OK] ボタンをクリックする
次のような画面が表示されます。



4 [はい] ボタンをクリックする

[ディスクアドミニストレータ] の画面が表示されます。

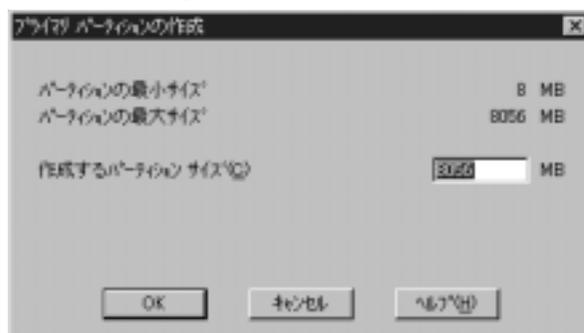


(注) 画面は一例です。

5 増設したハードディスク (例: ディスク 1) の「空き領域」をクリックする
「空き領域」全体が黒い太線で囲まれます。**6** [パーティション] メニューの [作成] をクリックする

[パーティション] - [拡張パーティションの作成] をクリックすると拡張パーティションが作成できますが、ここでは [作成] をクリックし、増設したディスク 1 にプライマリパーティション (E ドライブ) を作成する例を説明します。

[プライマリパーティションの作成] 画面が表示されます。

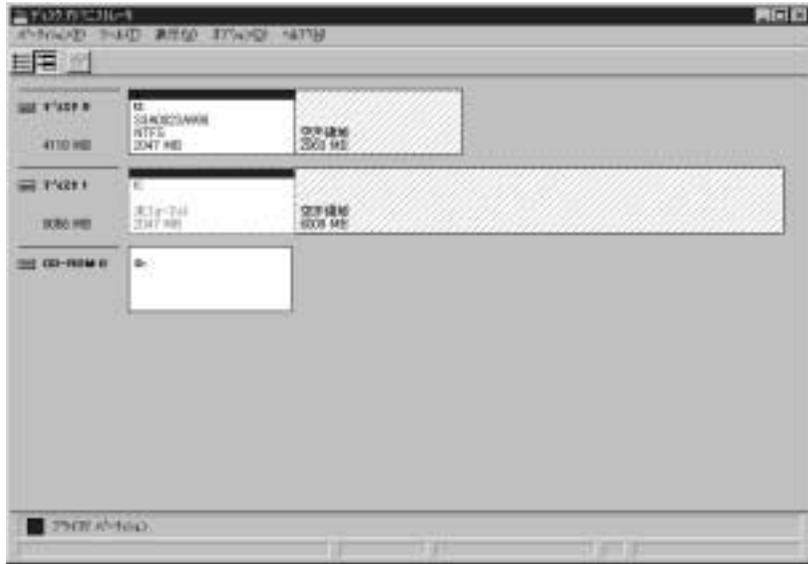


(注) 画面は一例です。

7 作成するパーティションサイズ (例: 2048) を入力する

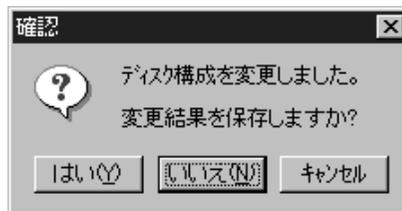
既定値として表示されている値は、ディスク 1 に作成可能な最大サイズが表示されています。ここでは、パーティションサイズとして 2048MB を指定する例を説明します。

- 8** [OK] ボタンをクリックする
次のような画面が表示されます。



(注) 画面は一例です。

- 9** [パーティション] メニューの [今すぐ変更を反映] をクリックする
次のような画面が表示されます。



- 10** [はい] ボタンをクリックする

次のような画面が表示されます。ハードディスクのフォーマット作業が完了したら、システム修復ディスクの再作成を行なってください。

☞ システム修復ディスクの作成 ☞ 「2 章 2-4 Windows NT のセットアップ」



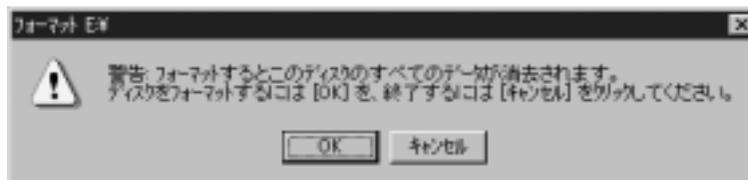
- 11** ディスク 1 の「E ドライブ」をクリックする
E ドライブ全体が太線で囲まれます。

- 12** [ツール]メニューの[フォーマット]をクリックする
[フォーマット]画面が表示されます。



- 13** [ファイルシステム]でFATまたはNTFSを選択し、[開始]ボタンをクリックする
次のような確認画面が表示されます。

! 注意 ・フォーマットを開始すると、そのドライブのすべての情報(ファイル)が消えます。



- 14** [OK]ボタンをクリックする
フォーマットを開始します。
フォーマットが完了すると次のような画面が表示されます。



- 15** [OK]ボタンをクリックし、画面を閉じる

16 [フォーマット]画面の[閉じる]ボタンをクリックし、[フォーマット]画面を閉じる

以上でフォーマットは完了です。

ドライブ文字を変更する場合には、[ツール]メニューの[ドライブ文字の割り当て]を選択してドライブ文字を変更してください。

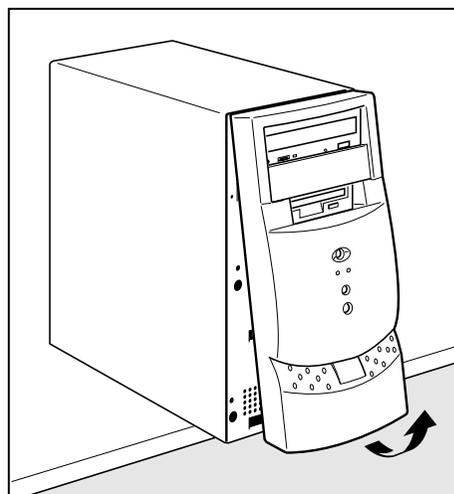
すべての作業が終了したら、ディスクアドミニストレータを終了してください。

9 増設 5 型装置

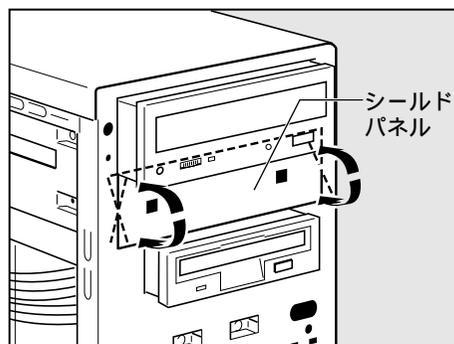
1 増設 5 型装置の取り付け

- 1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する
- 2 本体カバーを取りはずす
☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」
- 3 安定した台の端に本体を置く
- 4 フロントベゼルを取りはずす
フロントベゼル底面のくぼみに手をかけ、手前に強く引いてください。

! 注意 ・台から本体が落ちないように、しっかりとおさえて作業を行なってください。

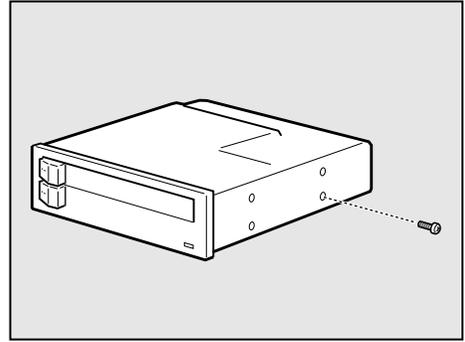


- 5 装着するオプション装置によっては、装置側のジャンプスイッチやディップスイッチの設定をする
☞ 設定について ☞ 『それぞれの装置に付属の説明書』
- 6 シールドパネルの矢印の位置を何度か押し、シールドパネルを取りはずす

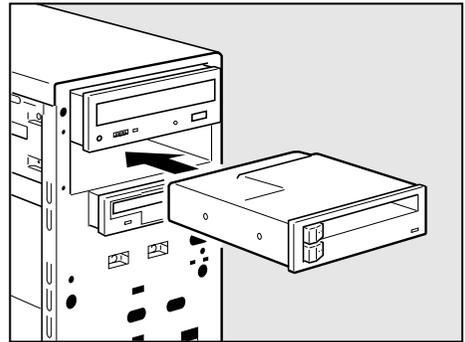


! 注意 ・シールドパネルを取りはずすときは、指を傷つけないように作業用手袋の使用をおすすめします。
シールドパネルを取りはずすときに折った部分はとがっていますので触れないでください。

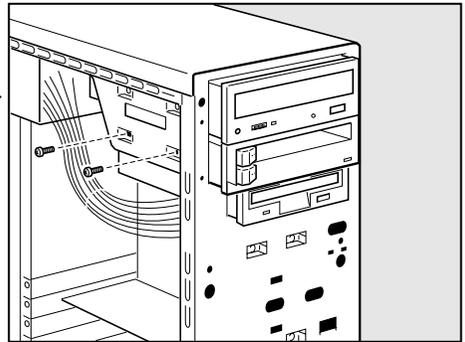
- 7** 本体同梱の増設 5 型装置専用取り付けネジを図の位置に取り付ける
オプション装置に付属のネジは、ここでは使用しないでください。



- 8** ファイルスロットにオプション装置を取り付ける

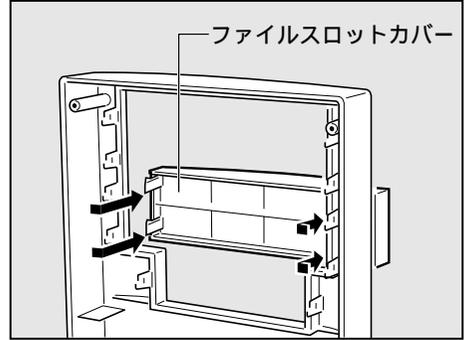


- 9** オプション装置に付属のネジ 2 本でオプション装置を固定する
本体同梱のネジ（増設 5 型装置専用取り付けネジ）は、ここでは使用しないでください。



- 10** オプション装置とケーブルを接続する
ケーブルが正しい場所に接続されているか確認してください。
☞ オプション装置のケーブル接続 ☜ 『オプション装置に付属の説明書』
- 11** 電源コネクタをオプション装置に接続する
- 12** 本体カバーを取り付ける
☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」

13 フロントベゼルに付いているファイルスロットカバーを取りはずす



・取りはずしたファイルスロットカバーはなくさないように大切に保管してください。

お願い

14 フロントベゼルを取り付ける

CD-ROM 装置の位置を合わせてかぶせ、フロントベゼルの中程と下側の左右を押してツメを押し込み、固定します。

15 電源コードを接続し、本体前面の電源スイッチを押して電源を入れる

16 必要があれば、BIOS セットアップを起動し、設定を変更する

☞「5章 BIOS セットアップについて」

2 増設 5 型装置の取りはずし

増設 5 型装置の取りはずし方法について説明します。取り付け時の図を参照しながら作業を進めてください。

☞「本節 1 増設 5 型装置の取り付け」

1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する

2 本体カバーを取りはずす

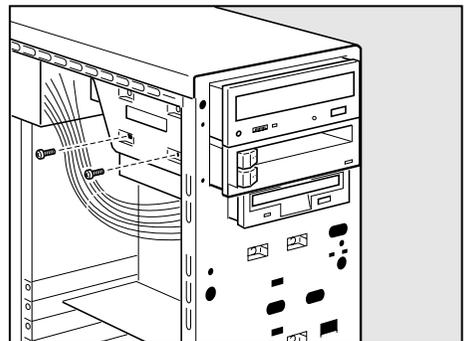
☞「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」

3 フロントベゼルを取りはずす

! 注意 ・台から本体が落ちないように、しっかりとおさえて作業を行なってください。

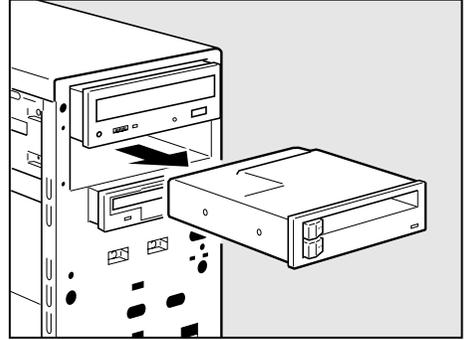
4 オプション装置に接続されている電源コネクタとケーブルをはずす

5 オプション装置を固定しているネジ 2 本をはずす



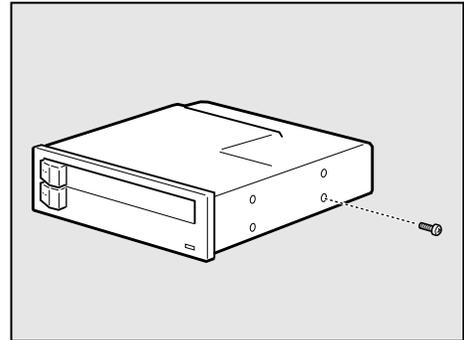
6 オプション装置を引き抜く

取りはずした装置は、適切な箱などに入れて大切に保管してください。



7 オプション装置から増設 5 型装置専用取り付けネジ 1 本をはずす

取りはずしたネジは、大切に保管してください。



8 フロントベゼルにファイルスロットカバーを取り付ける

9 フロントベゼルを取り付ける

10 本体カバーを取り付ける

☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」

11 電源コードを接続し、本体前面の電源スイッチを押して電源を入れる

12 必要があれば、BIOS セットアップを起動し、設定を変更する

☞ 「5 章 BIOS セットアップについて」

10 増設メモリカード



お願い

- ・必ずメモリカードに付属の説明書をお読みになったうえで作業を行なってください。
- ・使用できる増設メモリカードは1枚です。
- ・増設メモリカードの取り付けが難しいと思われる方は、保守サービスでの取り付けをおすすめします。同梱の『保守サービスのご案内』をご覧くださいのうえ、お近くのサービスステーションに作業をご依頼ください（有償です）。

本装置には次のメモリカードが取り付けられます。

増設メモリカード	型番	対応システムバスクロック
増設64MBメモリカードB	PVP121JA	100MHz



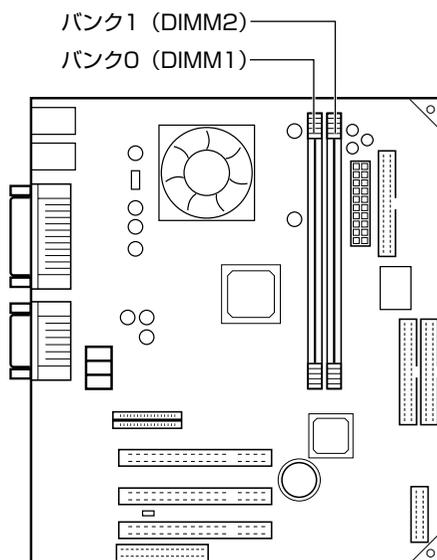
注意

- ・メインボードは、システムバスクロック100MHzをサポートしています。メモリ増設の際は、ご使用のモデルにあったメモリを使用してください。異種のメモリを使用すると正常に動作しない場合があります。
- ・メモリカードを増設されるときは、必ず本製品のオプションをお買い求めください。その他の製品を使用することはできません。もし使用した場合は、本体が正常に動作しない、または故障の原因になります。



メモ

- ・上記に示した増設メモリカードはECC対応ですが、本装置は、ECC機能をサポートしていません。
- ・ECC対応のメモリカードとECC未対応のメモリカードを併用した場合、ECC機能はサポートされません。標準メモリはECC未対応です。標準メモリを取り付けたまま、増設メモリをECC対応のメモリカードにしてもECC機能はサポートされません。
- ・標準メモリのメモリカードを取りはずし、256MBのメモリカードを2枚実装することにより、最大512MBまで実装することができます。
- ・メモリ増設ソケットは、DIMM1がバンク0用、DIMM2がバンク1用です。バンク0には標準メモリが取り付けられています。



お願い

- ・カードエッジ（接点）は金メッキタイプを使用し、ハンダメッキは使用しないでください。本体が正しく動作しないことがあります。

1 増設メモリカードの取り付け

増設メモリカードの取り付け方法について説明します。

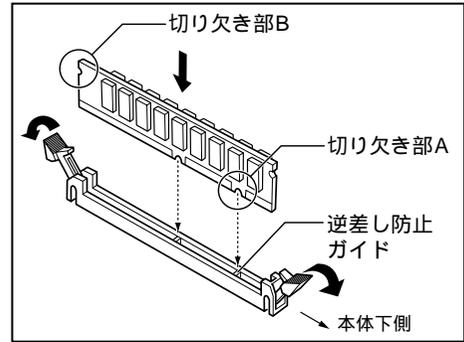
- !** 注意 ・増設メモリカードは、静電気に大変弱い部品で構成されています。身体に静電気を帯びた状態で増設メモリを扱うと、増設メモリが破壊する原因となります。増設メモリカードの取り付け/取りはずしを行う場合は、端子やICなどに触れないよう、縁を持ってください。

1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する

2 本体カバーを取りはずす

☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」

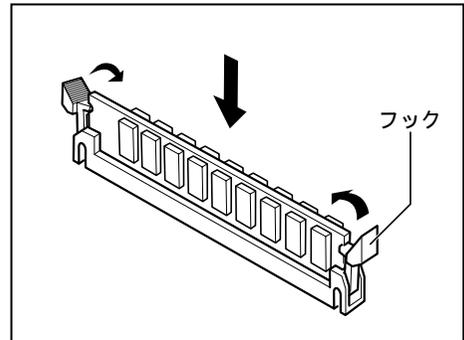
3 左右のフックを外側に倒し、増設メモリカードの切り欠き部 A を、メモリ増設ソケットの逆差し防止ガイドに合わせる



- !** 注意 ・増設メモリカードの挿入方向をまちがえないでください。まちがえて取り付けると増設メモリカードまたはメモリ増設ソケットを破損する原因になります。

4 左右のフックが切り欠き部 B に掛かるように、増設メモリカードをしっかりと押し込む

増設メモリカードが左右のフックで固定されます。



- !** 注意 ・増設メモリカードが完全に挿入されていない状態で、使用すると、異常動作したり、増設メモリカードまたはメモリ増設ソケットを破損する原因になります。
・内部のケーブルをメモリカードとソケットではさみ込まないようにしてください。



お願い

・メモリカードの接点（金メッキ部）がきちんとソケットに入っていることを確認してください。正常に取り付けられていないと、システムが正常に起動できなかったり、故障の原因となります。

5 本体カバーを取り付ける

☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」

以上で増設メモリカードの取り付けは完了です。

増設したメモリカードが認識されているか、確認してください。

メモリ増設の確認

1 [スタート] ボタンをクリックして、[設定]-[コントロールパネル] をクリックする

[コントロールパネル] 画面が表示されます。

2 [システム] アイコンをダブルクリックする

[システムのプロパティ] 画面が表示されます。



合計のメモリ量が表示されます。

(注) 画面は一例です。

3 [全般] タブの RAM の数値が合計のメモリ量と合っているか確認する

次のような場合は、増設メモリが正しく取り付けられていないか、故障している可能性があります。もう一度正しく増設メモリカードの取り付けを行なってください。

- ・電源が入らない
- ・システムが起動しない
- ・数値が合っていない



メモ

・VRAMとしてメインメモリを使用しているの、1MB 少なく表示されます。

② 増設メモリカードの取りはずし

増設メモリカードの取りはずし方法について説明します。取り付け時の図を参照しながら作業を進めてください。

☞ 「本節 1 増設メモリカードの取り付け」



注意 ・増設メモリカードは、静電気に大変弱い部品で構成されています。身体に静電気を帯びた状態で増設メモリを扱くと、増設メモリが破壊する原因となります。増設メモリカードの取り付け/取りはずしを行う場合は、端子やICなどに触れないよう、縁を持ってください。

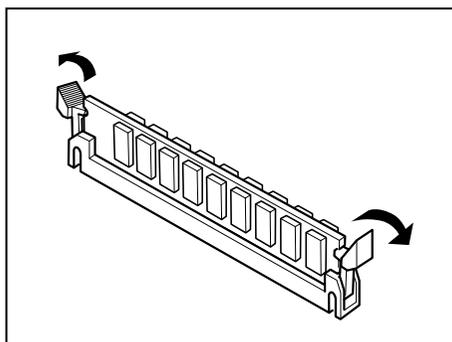
1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する

2 本体カバーを取りはずす

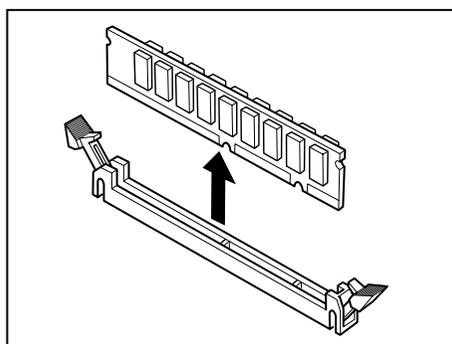
☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」

3 ソケットのフックを両側に開く

増設メモリカードが少し出てきます。



4 増設メモリカードを真上に引き抜く



5 本体カバーを取り付ける

☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」

11 内蔵バッテリーの交換

このバッテリーは時計およびシステム構成情報（BIOS セットアップの設定内容）を保持するためのものです。内蔵バッテリーを交換する（取りはずす）と、BIOS セットアップの再設定を行う必要があります。

通常の使用環境では、バッテリーの寿命は約 3 年です。

バッテリーが寿命に達すると、システム起動時に次のメッセージが表示されますので手順に従って交換を行なってください。

CMOS checksum Bad.



- 注意** ・本装置の内蔵バッテリーには、リチウム電池が使われています。リチウム電池の取り扱いについては、次の事を必ずお守りください。
- ・ 充電、電極除去、分解をしない
 - ・ 100 以上の加熱、焼却をしない
 - ・ 電池は水にぬらさない
 - ・ 子供が飲み込んだりしないよう、十分注意する
 - ・ 電池の内部の液がもれたときは、液にふれない
- リチウム電池を廃棄する場合は、地方自治体の条例、または規則に従ってください。

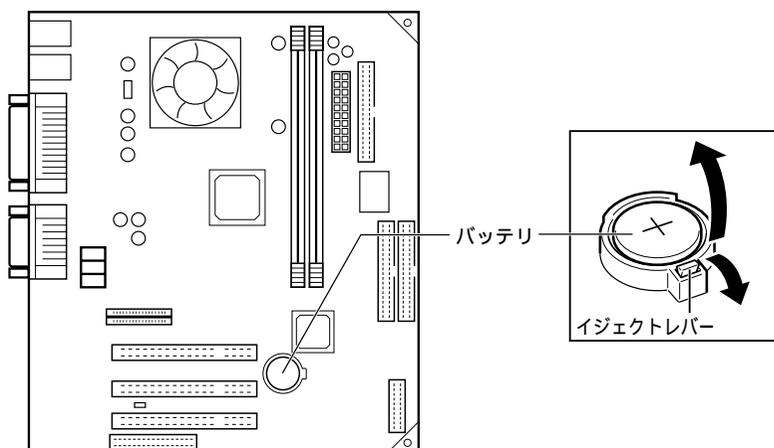


お願い

- ・ 電池を取りはずすと、システム構成情報（BIOS セットアップでの設定内容）が失われます。あらかじめシステム構成情報を控えておき、電池を交換した後で設定し直してください。本装置に使用できる内蔵バッテリーはCR2032 リチウム電池です。交換の際は、市販のCR2032 リチウム電池をお買い求めのうえ、ご使用ください。
- ☞ 「5 章 BIOS セットアップについて」

バッテリーの交換は必ず次の手順に従ってください。

- 1 「本章 1 作業を始める前に」での事前の注意事項を確認する
- 2 本体カバーを取りはずす
☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」
- 3 イジェクトレバーを図の の方向へ押す
バッテリーが少し浮き上がります。



お願い

- ・ バッテリーが浮き上がらない場合は、イジェクトレバーの部分だけを押しってください。ケースの部分と一緒に押さえていると、レバーは押せません。

4 新しいバッテリーを (+) を上にして取り付ける



お願い

- ・バッテリーの極性 (+、-) をまちがわないように取り付けてください。
+ 側は、「+」マークや「CR2032」と表示されている側です。

5 本体カバーを取り付ける

☞ 「本章 6 本体カバーの取りはずし、取り付け」



お願い

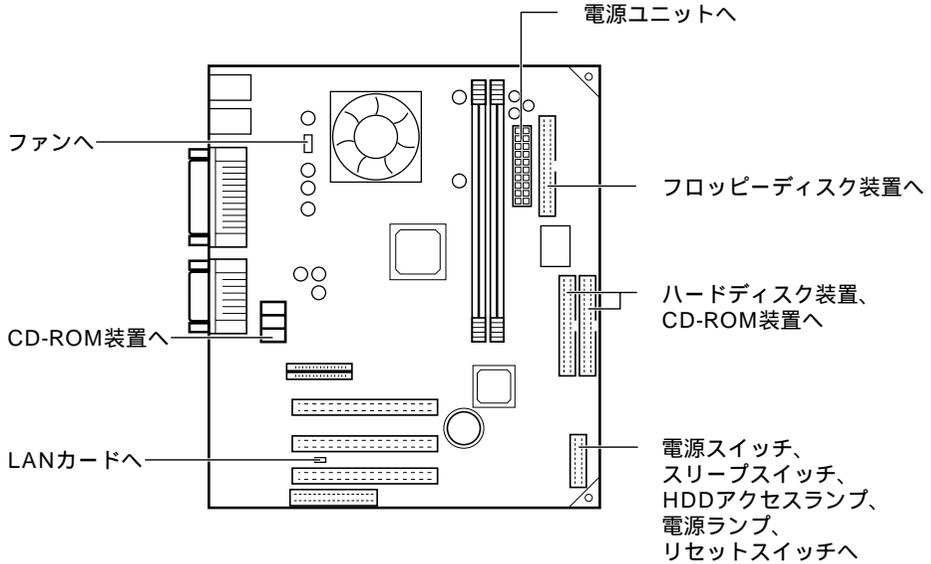
- ・BIOS セットアップの設定は、既定値の状態になっています。電源 ON 時に BIOS セットアップを起動し、再設定してください。

☞ BIOS セットアップについて ☞ 「5 章 BIOS セットアップについて」

12 内部ケーブルの接続

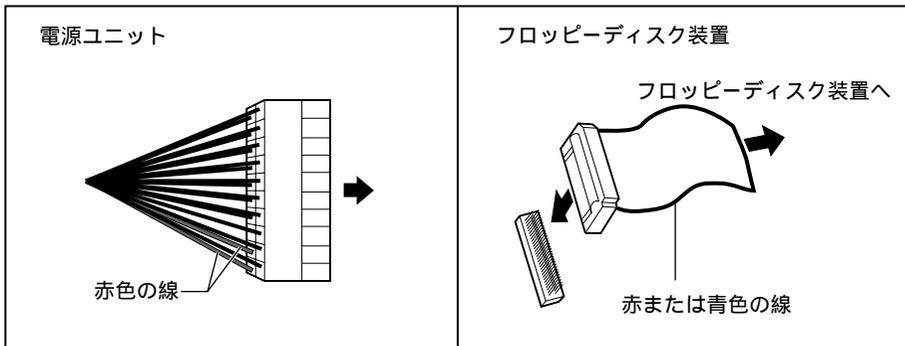
1 メインボードのコネクタ接続位置

各機種種のメインボードのコネクタ接続位置について説明します。
各コネクタの装置名は、接続先の装置を表します。

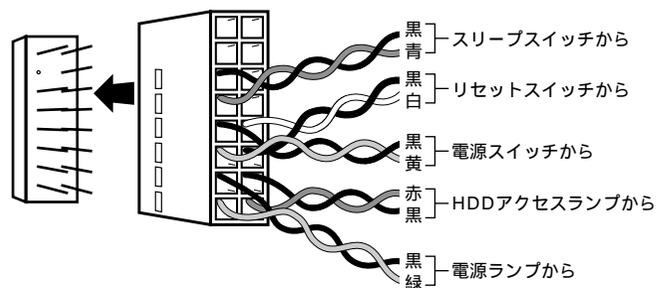


2 コネクタへの接続

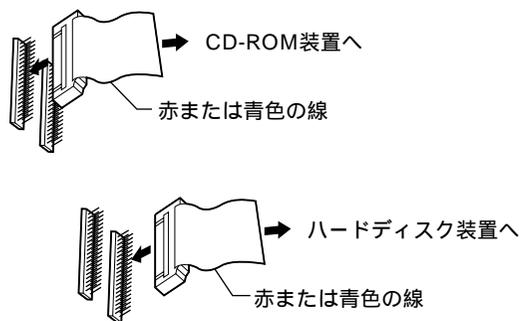
コネクタへの接続方法を説明します。
接続の際は、コネクタの形状やケーブルの色に注意してください。
各イラストのタイトルは、接続先の装置を表します。



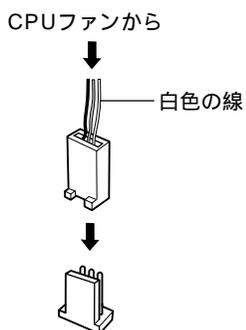
電源スイッチ、スリープスイッチ、HDDアクセスランプ、電源ランプ、リセットスイッチ



ハードディスク装置、CD-ROM装置



ファン



3 装置への接続

装置への接続方法を説明します。

接続の際は、コネクタの形状やケーブルの色に注意してください。

各イラスト中の「メインボード*から」という説明は、「メインボードのコネクタ接続位置」の接続装置名を表します。

